

## ■ 魚種交替（TBSラジオ「日本全国8時です」2003. 9. 11）

昨年もサンマが豊漁でしたが、今年はそれ以上の豊漁で、現時点で今年の3割以上の水揚げです。食べる立場からはありがたいことで、東京のスーパーマーケットでも1匹100円以下で買えるのですが、獲っている漁師さんは安くなりすぎて大変です。

北海道の産地では1キロ50円から60円ですから1匹にすると10円にもならない値段で取引されており、漁船の油代にもならず、獲れば獲るほど赤字になるという状態です。

そこで現在では、値段を維持するために、北海道の根室の漁港では、水揚げをした漁船は翌日を自主休業するとか、宮城県の気仙沼の漁港でも、水揚げした漁船は岸壁で24時間出漁しないという調整までしている状態です。

ところが、すべてが順調というわけにはいかないのが世の中で、サンマと同様に大衆魚といわれるマイワシが、ここ数年まったく獲れなくなっています。その結果、マイワシは東京の市場ではキロ500円程度になり、小売店では1500円にもなりません。これでは1匹150円にもなり、イワシが高級魚ということになりかねません。ちなみに、これは10年ほど前の豊漁のときに10倍以上の値段です。

サンマとイワシとサバは三大・大衆魚といわれますが、あちら立てればこちらが立たずの状態です。例えば1955年から62年はサンマの全盛期で、58年にはサンマが39万トン獲れたのに、マイワシはわずか0.9万トン、サバは3.1万トンでした。

ところが63年から75年はサバの全盛期になり、1971年の漁獲量は、サンマが5.4万トンと7分の1に激減したのに、サバは57.8万トンと20倍近くも増えたのです。そのときマイワシは依然として0.2万トンと鳴かず飛ばずのままでした。

さらに75年から92年まではマイワシが主役になり、1987年の漁獲量ではマイワシが193万トンと一気に200倍以上も獲れたのに、サバは16.8万トンと4分の1近くに落ち、サンマも7.4万トンと低迷したままでした。

92年以後はサンマが主役で、マイワシは87年を頂点に現在は10万トンも獲れないという状態になり、先ほど説明したように高級魚になりつつあるのです。

要約すれば、1950年代後半はサンマが主役、60年代はサバが主役、70年代後半からはマイワシが主役、そして、90年中頃からサンマが主役と15年程度の間隔で主役が交代しているということになります。

これは日本だけの現象ではなく、他の地域でも発生しており、例えば、日本と並ぶ漁業地域であるヨーロッパの北海でも、似たようなことが発生しています。ここではサンマの代わりにニシンが登場しますが、60年代前半はニシン、60年代後半がサバ、70年代にはイワシと交代しています。

このような現象を専門用語では「魚種交替」、すなわち獲れる魚の主役が交代する  
というように言いますが、結論を言えば原因は正確には分からないということです。

漁業関係者の生死にかかわることですから、研究者が熱心に研究していますし、1  
983年には国連の組織である世界食糧農業機構（FAO）が国際会議を開催して議  
論しているほどですが、色々な説明があつて、絶対にそうだという理由はまだ発見さ  
れていないのです。

簡単明瞭な説明は乱獲によるものだということです。日本のニシンやハタハタは、  
そのようですが、サンマやイワシは一定年数で復活してきますから、必ずしも当たら  
ない。

エルニーニョ現象が主因だとする説もあります。これは毎年、南半球の夏にあたる  
1月から3月にエルニーニョといわれる南向きの暖流が流れ海水が高温になるため、  
プランクトンが減少し、アンチョビ（カタクチイワシ）などが減るという説明ですが、  
そうであれば、ほとんどの魚が減るはずなのに、一部の魚だけが減るので、やはり完  
全な説明ではない。

別の説は、同じプランクトンを餌にしている二種の魚のうち、人間がどちらかを大  
量に獲ってしまうと、残った魚にとって餌が豊富になるので交替で繁殖するという説  
明です。これももっともらしいのですが、なぜ特定の魚だけが影響を受けるのかが上  
手く説明できないという弱点があります。

そこで登場したのが、日本の水産庁の研究所におられて『イワシと逢えなくなる日』  
などのベストセラーを書かれた河井智康さんの説です。それは海中に魚食性プランク  
トンという、魚の稚魚を餌にするプランクトンがいて、Aという魚が産卵した海域に、  
その魚食性プランクトンが大量発生すると、その稚魚を大量に食べてしまう。そうす  
るとAという魚は減るが、Bという魚が繁殖した魚食性プランクトンを食べて繁殖す  
るといふ結果になるということです。

この説によると栄枯盛衰は15年周期で、将来を予測すると、現在のサンマの最盛  
期はやがて終わり、2010年代はサバ、25年頃からイワシ、サンマが復活するの  
は40年代になるということです。したがって、ここ数年にサンマを食べておかない  
と、次に安くなるのは30年後ですから、ぜひ、今晚でも食べてください。